

□ 年 □ 組 名前 □

教材1-J-(5) 不等号を用いた式

- ④ 『ある水族館の入館料は、大人1人が a 円、子ども1人が b 円です。大人2人と子ども3人のグループが入館するために5000円出したところ、お金が足りませんでした。このときの数量関係を不等式で表しなさい。なお、入館料は消費税込みとします。』の解決のために

まず、不等号について考えてみましょう。

この問題では、大人2人と子ども3人の入館料 と 5000円

の大小関係について不等号を用いて表せばよい。

「お金が足りませんでした。」ということから、5000円 は少なかったということになります。

適する不等号を2つの数量の間に入れると、

大人2人と子ども3人の入館料 5000円

次に、入館料について考えてみましょう。

水族館の入館料は、大人1人が a 円なので、大人2人分は 円

子ども1人が b 円なので、子ども3人分は 円

それらをあわせて 大人2人と子ども3人の入館料 は 円

したがって
不等式は となる。

たしかめよう

- ① 1本60円の鉛筆 a 本と1冊200円のノート1冊を買ったときの代金の合計が700円以下となった。
このときの数量関係を不等式に表しなさい。

- ② ある水族館の入館料は、おとな1人 a 円、子ども1人 b 円である。大人3人と子ども4人のグループが入館するために10000円払ったところおつりがもらえました。
このときの数量関係を不等式に表しなさい。